

●現在の会員状況 (2011. 04. 08現在)



正会員 (個人)	80名
正会員 (団体)	3団体
賛助会員 (個人)	39名
賛助会員 (団体)	1団体



前号発行時より10名の方が
新たに入会してくださいました☆
皆様のご支援、心より感謝いたします。
今後もよろしくお願い致します。

～ピピオからのお知らせ掲示板～

お 願 い

- ・「ピピオ子どもセンター」は、主に会員の会費と寄付によって運営される団体であり、多くの方のご支援がなければ成り立ちません。そのため「ピピオ子どもセンター」では、法人案内のパンフレットを作成し、広く入会申込及び寄付の募集をさせていただいております。パンフレットの送付を希望される方は事務局まで御連絡下さい。
- ・「ピピオの家」での実際の子どもの受け入れを開始にあたり、衣類や食料品が不足しております。タオルや衣類(新品のものに限らせて頂きます。)、米などの食料品に関しては、引き続き寄付をお願いさせていただいておりますので、ご協力いただける方は事務局まで御連絡いただければ幸いです。
家具等の物品類に関しては、皆様方のご協力により必要最低限のものをまかなうことができました。ご協力ありがとうございました。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0005 広島市中区西白鳥町16番7号NIDIビル202 那須法律事務所内
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-299-7629

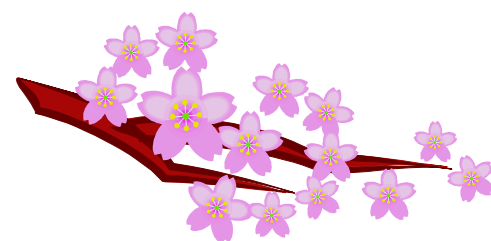
ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 3

平成23年4月12日

●子どもシェルター「ピピオの家」が誕生しました!!



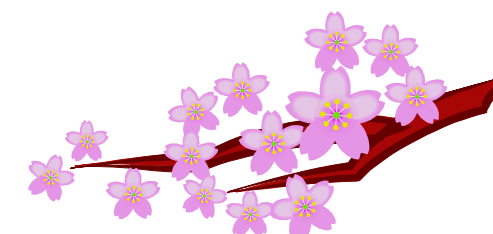
皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私ども『ピピオ子どもセンター』では、この度子どものためのシェルター「ピピオの家」を開設し、4月11日より実際に子ども達の受け入れを開始する運びになりました。物品の寄付等皆様方の様々なご支援のおかげで当初の予定通りに開設することができました。心より感謝申し上げます。

昨年4月25日に開催されたシンポジウム「子どものためのシェルターを作ろう!!」から丸一年。短期間で「ピピオの家」誕生にこぎつけることができたのは、一重に皆様方の「ひとりぼっちで困難を抱える子ども達に少しでも手をさしのべたい。」という強い思いに支えていただいたからに他なりません。

ここからが本当のスタートになります。今後もシェルター運営や自立援助ホームの開設等でやるべきことは山ほどありますが、私たちは、行き場をなくした子ども達のためにさらなる努力をしていきたいと思っております。

今後とも皆様の暖かいご支援のほど、
よろしくお願い致します。



会員の皆様へのご挨拶～第3回～ 理事 大石結加

いよいよこの4月から、「ピピオの家」が稼働し始めます。ここまでたどり着けたのも、皆様からのご理解ご協力ご支援のお陰と、心から感謝申し上げます。

最初に「ピピオの家」を訪れるのは、どんなひな鳩でしょう？かつて私が出会った少女は、身体的虐待を受ける家庭と精神的虐待を受ける施設の間を行き来し、「もう死んでもいい？」と尋ねるのが口癖でした。子どもは、養育者への愛着形成を基盤として、人として生きていく為の基本的信頼感を獲得し、自尊感情を育みます。しかしそれが不適切な環境で獲得出来なかった場合、子どもは大人や社会を信じることが出来ず、自分の存在そのものを否定し、苦しみ続けます。それは問題行動や反社会的行動、非行になって表れたりもします。そんなひな鳩達の傷ついた心と体を、安心できる居場所と温かい食事で包み込み、「ピピオの家」が生きる力を取り戻す場とされるよう、スタッフ・ボランティアの方々で研修も重ねて参りました。

「ピピオの家」の灯りが、一人でも多くの傷ついた子ども達の生きる希望の明かりとなることを願ってやみません。しかしその灯りをともし続ける為には、まだまだ多くの方々の賛同が必要です。役員一同、会員増に向けての活動を続けておりますが、会員の皆様方におかれましては一度お知合いの方に声かけ戴く等、ご協力戴けたら幸いです。どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

NPO法人ピピオ子どもセンター
理事 大石結加

2011.04.23 ピピオ開設記念シンポジウム開催！！

子どもシェルター「ピピオの家」開設を記念し、『子どもたちの居場所を作ろう！』というテーマの下、シンポジウムが開催されます。詳細は、同封しましたチラシをご確認ください。

シンポジウム第1部は昨年大変好評を博し、ピピオ実現への大きなきっかけとなった、舟入高校演劇部と弁護士らによる演劇です。

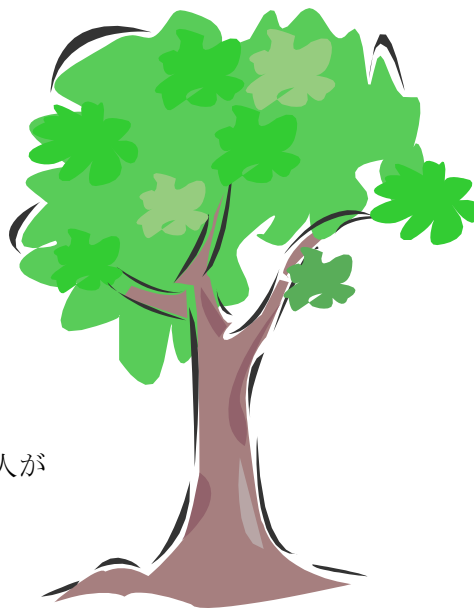
タイトルは「見上げてごらん、あなたの空だよ」

「悩み苦しむ子ども達の心の空」がテーマになっています。現在、舟入高校演劇部顧問の須崎教諭、前顧問の黒瀬教諭、演劇部部長の神垣真歩さん（次頁にてインタビュー掲載）の熱い指導の下、舞台構成者一同精一杯練習に励んでおります。

みんなの想いは一つです。演劇から出来たピピオを羽ばたかせたい。子どもたちの居場所を作りたい。子どもたちの未来を築きたい。その一心をみんなが舞台上で表します。

また、シンポジウム第2部は鶴野理事長と「基町のぼっちゃん」こと中本理事の対談です。分野は違えど、子どもの問題に取り組んでいるお二人がそれぞれの目線で子どもへの想いを語ります。子どもたちの未来を築く。それがお二人をはじめとした、大人たちの願いです。

皆様万障お繰り合わせの上、ご来場いただければ幸いです。



●舟入高校演劇部 部長 神垣真歩さんへのインタビュー



Q1 神垣さんは、昨年来、ピピオの演劇に参加して下さっていますが、そのきっかけを教えてください。

A1 きっかけは、舟入高校演劇部に弁護士の先生方から人権劇を一緒に作りませんか、というお話をいただいたことです。弁護士の先生方と交流を持てる貴重な機会だと思い、すぐに参加を希望しました。

Q2 愛子役を演じた気持ちを聞かせてください。

A2 愛子のような、親から虐待を受けている子の心理を本当に理解することは出来ませんが、愛子を演じさせていただいて、虐待を受けている子はどのような気持ちなのか、考える機会を持つことが出来ました。私はこの経験によって、よりピピオの必要性を感じました。

Q3 去年は演者、今年は舞台監督（演出）と役割が異なっていますが、ご自身の気持ちに違いがありますか？

A3 役割は異なりますが、ピピオのために自分ができることを最大限努めたいという気持ちは変わりません。

Q4 神垣さんは2年にわたり、ピピオ演劇に携わって下さっていますが、昨年と今年で変化したことがあると思われることがありますか？

神垣さん自身についてと高校生のみなさん、弁護士のみなについてそれぞれ感じられることをお聞かせください。

A4 最初は子どもシェルターを作ろう、という話の中だけのものだったのが、前回のシンポジウムを終えると、実際に存在するものになっていて、演劇の影響を改めて感じました。当初よりも弁護士の先生方は演劇に、高校生たちはピピオに、親しみを持つようになってきたように思います。私自身、ピピオが出来るまでは、あまり実感がなかったのですが、新聞にピピオの記事が載っているのを見て、無性に嬉しくなり達成感を感じました。そして、より、ピピオについて知りたいと思いました。弁護士の先生方、高校生たちが、お互いについてより関心が深まったことが、昨年と今年の変化だと思います。

Q5 ピピオに期待することがあれば教えてください。

A5 このピピオの劇作りを通して、弁護士の先生方と私たち高校生の絆が出来たように、一般の小学生から大人までの多くの市民のみなさんとピピオを作って、社会全体の絆を強くして欲しいです。

Q6 神垣さんの夢（今後の進路）についてお聞かせ下さい。

A6 世界には、衣食住に困っている人や、治安が悪く安心して生活することが出来ない人、愛子のように虐待を受けている人など、生きていくことが困難な人がたくさんいます。私の夢はそのような人たちの障害を、少しでもなくしていくことです。